

正誤表

『コンパクト生理学』（第1版第6刷 2009年3月15日発行）に誤りがございました。訂正してお詫び申し上げます。

訂正箇所	誤	正
36 頁 図の下の文献	<u>ir</u> baumer <u>ch</u> midt (1991) <u>i</u> ologische <u>psychologie</u> , 2nd <u>d.</u> , <u>pr</u> inger, Heidelberg より改変	Birbaumer N, Schmidt RF(1991)Biologische Psychologie, 2nd Ed., Springer, Hidelberg より改変
37 頁 表 運動単位 3行目	運動単位の大きさは、2～ <u>本</u> の筋線維	運動単位の大きさは、2～ 3 本の筋線維
37 頁 表 脳幹の運動中枢 1～2行目	1 延髄網様体 reticular formation(____), 2 前庭神経核, <u>橋</u> 網様体, 4 赤核などがある。	(1)延髄網様体 reticular formation(RF), (2)前庭神経核, (3)橋網様体, (4)赤核などがある。
37 頁 表 運動皮質 1～2行目	②その周囲(<u>野</u>)の補足運動野 supplementary motor area(____)と運動前野 premotor cortex(____C)よりなる。	②その周囲(6野)の補足運動野 supplementary motor area(SMA)と運動前野 premotor cortex(PMC)よりなる。
37 頁 表 視床の運動核 1行目	腹外側核 <u>entrolateral nucleus</u> (____)で	腹外側核 ventrolateral nucleus(VL) で
40 頁 表 臓器官による自己抑制と拮抗的興奮: ③中枢神経系ニューロン 2行目	興奮性シナプスを形成する2～ <u>個</u> の	興奮性シナプスを形成する2～ 3 個の
40 頁 表 屈曲反射と交叉性伸張反射: ①, ②感覚器と求心路 2行目	および I <u>群</u> (<u>δ</u> とC)求心性線維	および IV 群(Aδ とC)求心性線維
41 頁 図 脳幹の運動中枢と遠心路, 求心路 下から2行目	運動皮質, p. <u> </u> の図を参照	運動皮質, p. 36 の図を参照
41 頁 表 視床動物 1行目	高位中枢を除いた動物(上図の切断面 <u> </u>)	高位中枢を除いた動物(上図の切断面 3)
44 頁 図の下の文献	<u>ch</u> midt <u>iesendanger</u> (1989) <u>otor systems</u> . In: <u>ch</u> midt <u>he s</u> (eds) Human <u>hysiology</u> 2nd <u>d.</u> <u>pr</u> inger, Heidelberg より改変	Schmidt RF, Wiesendanger M(1989)Motor systems. In: Schmidt RF, Thews G(eds)Human Physiology 2nd Ed. Springer, Heidelberg より改変
45 頁 大脳基底核の求心路と遠心路 2行目	淡蒼球に送る(伝達物質: <u> </u>)	淡蒼球に送る(伝達物質: GABA)
45 頁 大脳基底核の求心路と遠心路 3行目	運動核に行き(抑制性: <u> </u>)	運動核に行き(抑制性: GABA)
45 頁 運動系における大脳基底核の役割 2行目	発射パターン作る(p. <u> </u> の図, 右列参照)	発射パターン作る(p. 36 の図, 右列参照)
45 頁 表 大脳基底核の機能的ループ: 眼球運動ループ 2行目	皮質性入力を受ける(<u>野</u> から補足的入力)	皮質性入力を受ける(7野 から補足的入力)
260 頁 ネフロン 4. 遠位尿管 2行目	で曲がりくねった曲部を形成す <u>る</u> . 多量のナトリウ <u> </u>	で曲がりくねった曲部を形成 する . 多量のナトリウ ム